



年明け早々、まだ新型コロナウイルスの問題が深刻化する前の時期に大阪の《あべのハルカス》へ行ってきました。今考えると、この時に現在のような状況を誰が想像できたでしょうか。。。

今回はこういう時だからこそ、あえて私自身もいい思い出になったことを記したいと思います。

あべのハルカスはビルとしては日本一の高さを誇り、高さは300mあります。新しいタイプの複合型商業施設をコンセプトに建設された百貨店で最先端の大規模オフィスや文化を楽しめる都市型美術館、ホテルや貸会議室などサービス内容はさまざまです。

最上階60階まではエレベータで一気に上がっていきます。正確には16階ー60階へのエレベータで約45秒で到着します。そのエレベータも一工夫されていて、宇宙空間で宇宙船に乗っているかのような気分させてくれる演出がなされています。

60階に到着し、さあ景色を楽しもうと窓際に足を進めたときに、あまりの高さに足がすくんでしまいました。子供の頃は高いところは平気だったのが、最近では高いところが以前にも増して苦手になっていることにあらためて気づかされます。

「ハルカス300ヘリポートツアー」に参加しました。60階が最上階ではあるのですが、そのまたさらに上の屋上にあるヘリポートに上がって風を感じることができるツアーです。これには意外にも足はすくまず、夕焼けが地平線に沈もうとする時間帯だったこともあり、とても神秘的な時間を過ごすことが出来ました。

右の写真は期間限定でちょうど開催されていたイベントで、ガラス窓面や床面にプロジェクションマッピングを投影した「CITY LIGHT FANTASIA by NAKED」です。今回のテーマは「Crystal World」。空から降る雪やクリスタルが夜空の街をひとつにつなげ、大阪では見ることのできないオーロラやダイヤモンドダストなど、自然界が創り出す奇跡的な現象と夜景を融合させた幻想的な世界を演出しているそうです。

58階には天空庭園にそびえたつ、通称「ツインタワー」と床面を一体的に用いた大空間での3Dプロジェクションマッピングが 있었습니다。ツインタワーから流れ落ちる滝と床面の湖の映像が連動し、ダイナミックな迫力で投影されるほか、ツインタワーに触れる、床面を歩くなど、人の動作に連動して映像が変化する演出もあり、観て、触れて、幻想的な世界を楽しむことができました。前々回のFP情報通信で報告しました佐賀県武雄市の御船山楽園で開催されていた「チームラボ かみさまがすまう森」でも同じような体験をしていたので驚きは以前よりはなかったのですが、子供たちは満面の笑みでそれらで遊んでいました。



# ～あっと驚くFP講座～

## ★コロナショックを冷静に捉えよう★

新型コロナウイルスの影響で2008年の100年に一度と言われた金融危機である「リーマンショック」以来、歴史に残る大幅な経済の落ち込みや株価等の下げが続いていますね。我々も展開があまりに早く、正直びっくりしております。米国の株価は、ほんの少し前の2月中旬には29,550ドルという史上最高値を付けていたんです。そこから一転して、3月18日には終値で2万ドルを割るなど大幅に、急速に下落しました。1月に中国・武漢でウイルスが見つかった後、米国には「アジアだけの問題」といった意識もありましたし、実際景気が大変良かったので米国の株価は下がるどころか上がっていたわけです。

「リーマン・ショック」は2008年9月15日に米国のリーマン・ブラザーズという証券会社が破綻したことが引き金になって、世界的な金融危機を引き起こしていきました。これは米国の銀行などが信用力の低い人にも住宅ローンをどんどん借りさせていた“住宅バブル”のツケと言えます。そのローンなどから構成された質の悪い金融商品を世界中の金融機関が大量に買い込んでいき、その金融商品の暴落により金融機関の経営危機が始まりました。そして2008年9月にリーマンが史上最大の企業倒産に至り、世界的な崩壊につながっていったわけです。

しかし、今回は金融システムに対する直接的な懸念はありません。リーマン後、二度と金融危機を起こすまいと、米国ははじめ世界中で金融規制がきびしくなったこともあり、金融機関は財務的に無理な資産運用をしませんでした。

世界中の「自粛」が実体経済に深刻な影響を与えることが今回の「恐れの手」です。外食・小売・レジャー・運輸など、直接的な打撃を受ける業種以外にも、悪影響が広がってしまう可能性はあるものの、金融を基点としてシステム自体が壊れてしまう「恐れ」とは違うはず。お化けは「姿が見えないから怖い」のであって、見えてしまえば怖くないですよ。見えてしまえばそもそもお化けと呼べるかどうかは別として。。。

リーマンの時、金融機関が持つ金融商品の損失額が徐々に明らかになるにつれ、つまりお化けの輪郭が見えるにつれ、下落が止まり、約半年後にマーケットは「コッソ」と底を打つように反転していきました。また、今回は、感染拡大を阻止すべく、政府が「意図をもって経済活動を止めている」というのもポイントです。意図をもって止めているのですから、「止めるのをやめる」ことも確実に出来るわけです。その意味で得体のしれないお化けではないと言えるかもしれません。

ウイルスはいずれ消滅、ないし沈静化するはず。したがってマーケットもどこかで「コッソ」と底を打つはず。その際ですが、「ワクチンが開発されるまで、何年間も待たねばならないのか」などと思う必要はないと思います。姿が見えないからこそお化けは怖いのであって、輪郭や大きさが見えてくれば、少なくとも投資マーケットは反応していくはず。

のちに「コロナ・ショック」と呼ばれるのが確実な今回ですが、過去「〇〇ショック」とか「危機」と呼ばれるマーケットの下落は何度かありました。そしてマーケットはそれらすべて、時間をかけて克服してきました。リーマンショックは危機発生から約6ヶ月後に「コッソ」と底打ち、1987年に起こったニューヨーク市場の大暴落、ブラック・マンデーでは1日に何と23%も下がりましたが、すぐ上がった後に2度目の下落をし、結局「コッソ」となったのは約1か月半後でした。

現在、投資されている方はお持ちのファンドの基準価格が大きく下がってしまったことにご不安を感じていると思います。それでも皆様にはこれまでお話ししてきたように冷静かつ大きな考え方を持っていただきたいと思います。「相場を張ってひとつ儲けてやろう」という投資スタンスではなく、将来のために、前を向いてリスクを再度受け入れていただき、「長期の作戦」を今一度ご確認いただきたいと思います。

恐怖心からの売却はお勧めできません。また、積立投資は「下落時こそ口数を増やすチャンス」と思って止めないことが非常に大事です。私なら積立額を増額したいくらいです。すでに毎月カツカツですが（苦笑）。